



interview Vol.11

東京土木施工管理技士会

優良技術者インタビュー

土木技術者の日頃の研究・研鑽を称え、技術者表彰規程に基づき、優良技術者の表彰を毎年行っています。今年度受賞された平井さんに、この業界をめざしたきっかけや土木工事の魅力についてお聞きました。



日本道路株式会社

平井 徹さん

(工事部 工事課長兼購買課長)



受賞

令和3年度有明北地区 区画道路13・15号線建設工事

主な工事内容

2020東京五輪で競技会場となった有明北地区において、大会終了後に東京都で管理していた供用前の道路を整備し、江東区に引き渡すための工事。当初は撤去される予定だったが都民の要望で大会のレガシーとして残すことになったスケートボードリンクがあり、そこでの競技会開催や近隣の小中学校の通学路への対策、他工事との調整など、各方面への配慮を要する事業だった。



ゆりかもめ有明テニスの森駅から望む現場。左は着手前、右は2025年2月時点の写真

国鉄職員の祖父から教わった 「モノづくり」の楽しさ



子どもの頃に同居していた祖父が元国鉄の機関士で、家でいつも何かを作ったり修理したりしているのを近くで見っていたので、それが自分のモノづくりの原点になっていると思います。

自然や生物が好きで、母親が教員だったこともあり、自分も理科の教師になるつもりで大学では自然科学を総合的に学べる地質学を専攻していました。大学で先生に薦められて読んだ小説「高熱隧道^{※1}」やビデオで見た映画「海峽^{※2}」といった大プロジェクトを成し遂げるノンフィクション作品に触れ、「自分もこういう

※1「高熱隧道」…1967年に発表された、吉村昭の長編小説。戦前の日本で、黒部川第三発電所建設に際して行われた過酷なトンネル工事を題材としたノンフィクション。

※2「海峽」…1982年に日本で公開された映画。出水などで困難を極めた青函トンネル工事を、従事した国鉄技師たちの姿を通じて描く。

世界で生きてみたい」と思うようになり、建設業界を志望しました。

小説や映画に影響を受け、トンネル工事を施工できるゼネコンからも内定をもらうことができたのですが、道路会社を選んだのは自然と共存した景観事業にも興味があったからです。就職活動の時は、当社が道路以外の様々な分野に関わっているというパンフレットを見たり大学の先輩であるリクルーターの方からの助言もあったりして、自分の目指す領域に近いと感じました。

入社後は公園整備などの景観事業に多く携わることができました。文京区で整備したある公園では某有名政治家の邸宅が隣接していて、いろいろと大変でしたけど、今ではいい思い出です。今回賞をいただいた工事は東京湾ウォーターフロントの壮大な景観事業の一環であり、入社ときに自分が希望したことに通じていたと思います。

「東京五輪レガシー」に関連する工事 周辺への配慮も欠かさず進める



東京五輪開催が決まった時、私も何かそれに関わる仕事をしたいなと思ってましたが、チャンスに恵まれず、選手村の工事に下請けとして関わる程度でした。そこへ今回の工事の話があって、五輪のレガシーとなる施設にアクセスする道路を担当できるということで、やりがいを感じました。工事としては、特別な工法を使うわけでもなく、高い技術も必要としない単純な道路工事なのですが、そういう工事ならではの難しさがあると思います。「難しい工事ではない」と思ったら誰でも心に油断が生まれるので、このような時こそ「凡事徹底」を意識してより慎重に取り組む必要があります。

今回特に気を遣ったのは、工事エリア内に小中学校があり、通学路が工事範囲と重なっていたことです。生徒たちが工事箇所を迂回するため、無駄に道路を横断することなく安全に通行できるように工夫しました。あとは、そのレガシーとなったスケートボードリンクを使ったパルクールの日本予選や世界大会が工期中に開催されたので、その際の作業調整。この街区では他にも建築工事が多数同時進行していたので、資材搬入などに使われるルートの確保でも他工事間とのスケジュール管理が必要でした。そういった調整・管理で、地域の方々になるべく負担をかけることなく工期内に終わらせることができたので、そこを評価していただけたのだと思います。ご協力いただいたみなさんには、感謝しかありません。



通学路施工前



通学路施工後



仮設通路を設置



通学の状況



ご家族で立山三山の縦走登山に挑戦 (提供: 平井徹氏)

趣味でも自然を満喫 休日は登山や釣りに出かける



もともと自然が好きなので、趣味は登山や魚釣りなど完全にアウトドア派です。登山は大学時代に始めました。今では家族を巻き込んで共通の趣味となっています。釣りは生まれ育った福井県敦賀で祖父に教わって以来の趣味です。最近は大学生の息子も釣りに目覚めたようで、一緒に行こうと言ってくれますね。妻には釣れない時間が苦痛と言われなかなか理解してもらえないんですが(笑)。

土木という仕事は「自己実現」 「人の役に立つこと」を原動力に



私がこの仕事をしている原動力となっているのが「人々の役に立つものをつくっている」ということです。地球物理学者の竹内均先生の言葉で、「人生の理想は自己実現である」というのがありますが、それによると「自分の好きなことをやって、それで生活できて、なおかつそれが人に評価される」のが自己実現だと。今回の受賞は「人に評価される」ことの一つの成果として私の人生にとって大変貴重なものとなりました。土木の知識を何も持たずにこの世界に飛び込んだ私がここまでやってこられたのは、多くの人の支えがあったからこそだと思います。土木の世界に入った動機はそれぞれ違うとは思いますが、若い技術者たちにも人の生活に欠かせないインフラを整備しているという点に誇りと責任を持って仕事に臨んでもらいたいですし、私もいろいろな形でサポートしていけたらと思っています。

(写真提供：特記以外は日本道路(株))